

## 令和5年度入学 一般選抜後期日程

### 論説 講評

書籍や雑誌といった出版物に接触する書店や図書館など、いわゆるタッチポイントを題材にした問題である。資料として、タッチポイントごとの出版物販売額やその経年変化、書店店舗数や図書館数などの推移、書店の特徴や公立図書館が担っている役割に関する文章などを提示した。これらの資料に基づく問いにより、与えられた資料から注目する事象を他との比較に基づいて正確に読み解く力、読み解いた事柄を簡潔に文章にまとめる力、社会の動向への理解や問題意識を関連付けながら解決への方策を探究し、論理的に文章にまとめ上げる力をみることを主な目的としている。

#### 問1

##### 【出題のねらい】

(1) は、二つの資料から、書店、コンビニエンスストア、インターネットでは、それぞれ「書籍」と「雑誌」のどちらがよく購入されているかを推測する問題である。(2) は、「書店で出版物が売れなくなった主要因は、インターネットでの販売が増加したからである」という説を反証する問題である。各問とも資料から必要な情報を抽出し、論理的に説明する力をみることをねらった。

##### 【講評】

解答状況は全体的にまずまずであった。資料で示したデータの意味するところについては理解していた受験者が多かったが、矛盾のない説明を行うために必要なデータをすべてそろえることができていない解答も散見された。情報を抽出する能力に加え、限られた文字数で説明する能力も問われる問いだったが、この点で難儀した受験者も多くみられた。

#### 問2

##### 【出題のねらい】

(1) は、二つの文章を比較しながら、公立図書館の特徴を読み取り、説明する問題である。(2) は、公立図書館を巡る現代の課題を資料から読み取り、それらを公立図書館の役割の観点から説明する問題である。各問とも資料から必要な情報を抽出し、論理的に説明する力をみることをねらった。

##### 【講評】

(1) の解答状況はよくなかった。資料から必要箇所を抽出するだけの問いであったが、書店の特徴が書かれた資料を十分に解釈しないと、公立図書館の資料から何を抽出すればよいかを判断できず、完全解答のためには一定の読解力を要したものと思われる。(2) では、多くの受験者がデータ

に示された公立図書館の動向を読み取り，これを現代の課題と照らし合わせることができていた。

### 問 3

#### 【出題のねらい】

子どもたちが読書する機会を増やすための方策について提案を求める問いである。発想力のみならず，与えられた条件を充足しながら，社会的課題を解くことを要求した。与えられた資料から社会的課題を抽出し，社会の動向への理解や問題意識を関連付けながら解決への方策を提示し，これらを論理的に文章にまとめ上げる力をみることをねらった。

#### 【講評】

与えられた条件を丁寧に充足しながら提案を行った解答は高得点につながったが，自己の発想力のみ依存しながら提案を行った解答は総じて得点が低かった。本学の学びにおいても，発想の豊かさのみが期待されているわけではなく，課題を発見し，問題解決に至るために論理的に思考し判断する能力が求められている。その基礎となる力が高等学校等までの学習で身につけているかを確認するねらいがあったが，半数程度の受験者はこの要求を満たさない水準であった。